



Polaris システムの本体横の主電源の再投入  
(OFF/ON) は、必ず**20秒**あけてください



センター  
**0120-177-779**  
(土日祝休日を除く 9:00-17:30)

# トラブルシューティング 目次

Boston  
Scientific  
Advancing science for life™

| 項目  | ページ |
|---|-----|
| 機器安全使用のご案内  | 3   |
| 主なエラーコードと対応一覧   | 4   |
| 起動に時間が掛かる、初期フリーズ (Error 1001~1004)                                    | 5   |
| マウスが動かない（フリーズした時）、ブルーバック画面など  | 6   |
| Polaris SWが、急に止まってしまう “iLab Presentation has stopped working”         | 7   |
| Polaris SWが、急に止まってしまう “Re-establishing the connection …(Error 1800) ” | 8   |
| カテ認識しない、イメージが出ない (Error 5002)   | 9   |
| オーバーロード Overload (Error 7010)   | 10  |
| Auto/Manualの切り替えができない、Autoが選択できない                                     | 11  |
| プルバックが途中で止まる (Error 7003)   | 12  |
| IVUS画像不良（カテ誤認識、画面が極端に暗い）  | 13  |
| IVUS画像不良（その他）   | 14  |
| IVUS画像にノイズが混入する①  | 15  |
| IVUS画像にノイズが混入する②  | 16  |
| FFR / ドリフト現象  | 17  |
| FFR / 異常波形の原因と対策(Pa)  | 18  |
| FFR / DFR計測できない、ボタンが押せない (Error 6019)                                 | 19  |
| FFR / DFRが計測できない エラーコード：6019 の詳細                                      | 20  |

# 機器安全使用のご案内

## □ 電源タップの使用は不可です。

- ✓ 電源タップの定格：定格:15A・125V・1875VAまで
- ✓ iLabの最大使用電力：600VA
- ✓ 他の機器と一緒に使用するとタップの定格を上回り、機器の故障に繋がります。

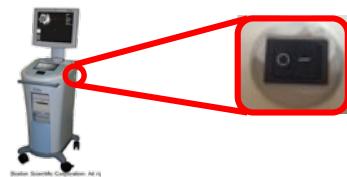


## □ ゆっくりとした操作をお願いします。

- ✓ 操作が重なるとPC内部温度が上昇し、PCの劣化を早めます
- ✓ ゆっくり操作していただければ長く安心してご使用いただけます。

## □ 不具合時の強制終了方法

- ✓ IGPCの電源ボタンを一度押します。  
(反応が無い場合はIMGPCの電源ボタンを画面が真っ暗になるまで長押ししてください。)
- ✓ 画面が真っ暗になったら本体横の主電源ボタンをOFFにしてください。
- ✓ 20秒待ってから主電源ボタンをONにして起動してください。



## □ 起動エラーの復旧方法

- ✓ 装置背面のACQPCを確認し、緑色のLEDが点灯しているか確認してください。
- ✓ 点灯している場合は装置のメインメニューのシャットダウンから再起動してください。
- ✓ 点灯していない場合は緑色のLEDの下にある赤（黒）色ボタンを押して2~3分お待ちください。
- ✓ これらの方法で改善しない場合は弊社コールセンターにお問い合わせください。



- 本体横の主電源をOFFにする際はモニターの表示が暗くなつてからにしてください。



- 電源OFFからの電源再投入は**20秒**開けるようお願いします。

最初のシャットダウン



再起動のON

**20秒待つ**



※主電源スイッチを落としてからPCの電源が完全に落ちるまで少し時間がかかるので、必ず20秒ほど待ってから電源を再投入してください。

- 起動中主電源スイッチを切る事はご遠慮ください。



※タイミングが悪いと患者データの破損、設定の初期化に繋がります。  
少なくともPCへダメージが残ります。最悪PCが故障し起動しなくなります。

# 主なエラーコードと対応一覧



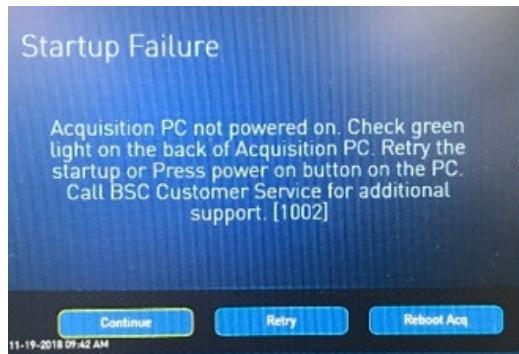
| ソフトウェア  | エラーコード      | エラー内容                             | エラー発生時の初期対応                    |
|---------|-------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| Polaris | <b>1002</b> | ACQ PCを認識していない(電源が入っていない)         | ACQ PCの電源確認                    |
| Polaris | <b>1109</b> | ACQ PC(PDAQ基盤)エラー                 | 再起動                            |
| Polaris | <b>5002</b> | カテーテルが接続されていない                    | IVUSカテーテル再接続                   |
| Polaris | <b>5008</b> | ACQ PCを認識していない(電源が入っていない)         | ACQ PCの電源確認                    |
| Polaris | <b>7003</b> | スレッドの終わりまできたためこれ以上プルバックできない       | メッセージボックスの"cancel"をクリック        |
| Polaris | <b>7010</b> | <b>モータードライブユニットへの過負荷（オーバーロード）</b> | <b>メッセージボックスの"cancel"をクリック</b> |
| Polaris | <b>7011</b> | ACQ PC(High Voltage)エラー           | メッセージボックスの"cancel"をクリック        |
| Polaris | <b>7025</b> | イメージングのスタートに失敗                    | 再起動                            |
| Polaris | <b>6019</b> | 異常Pa波形検知によりDFR計測ができない             | Pa波形の確認                        |
| Polaris |             |                                   |                                |

## 【ACQ PCの電源確認方法】

- ✓ 装置背面のACQPCを確認し、緑色のLEDが点灯しているか確認してください。
- ✓ 点灯していない場合は、緑色のLEDの下にある赤(黒)色ボタンを押してACQ PCの電源を入れてください。



## 【表示スクリーン】



## 【現象】

システム（ACQPC）が正常に起動していません。  
フリーズしています。

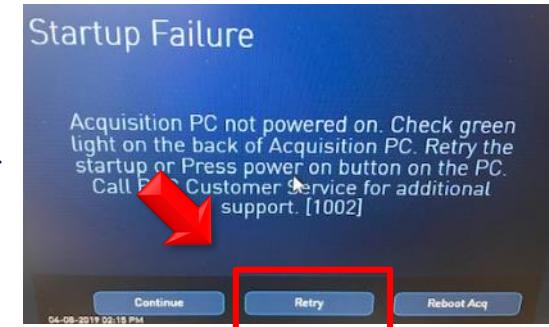
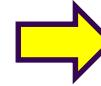
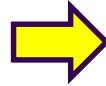
⇒ ACQ-PCを再起動し、復旧させます

## 【対処方法】

①“Continue”を押し、  
自動復旧を試みます。

②ACQPC背面で緑ランプの点灯を確認します。

③30秒程経ったら（ACQ起動後）、“Retry”をクリックします。



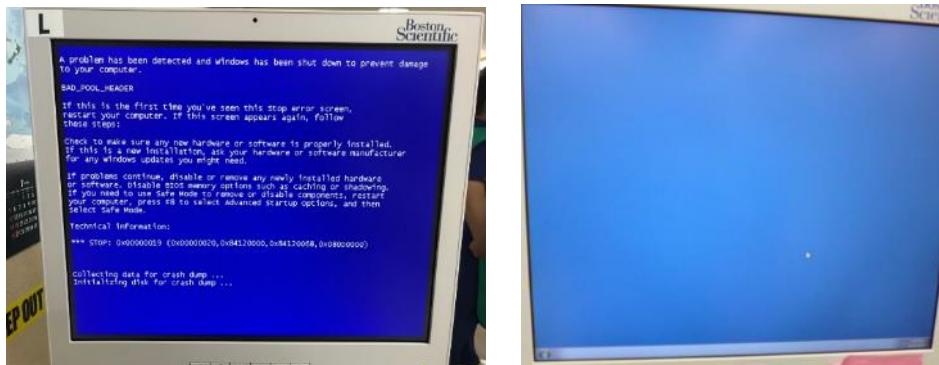
A:点灯している  
B:点灯していない

→ メインメニューの“Shut Down”

→ 赤色(黒)ボタンを押して2~3分お待ちください。

# マウスが動かない（フリーズした時）、ブルーバック画面など

## 【表示スクリーン】



## 【現象】

システムが正常に起動していません。  
ブルーバック(Blue Back)画面、マウス  
が効かない状態になります。

⇒ システムの再起動をします

## 【対処方法】

### ①IMGPCの電源ボタンを一度押します。

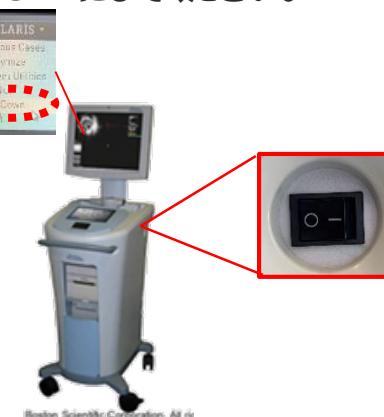
・反応が無い場合は、画面が真っ暗になるまで長押し。



### ②画面が真っ暗になったら 10秒待ってから、再度 IMG-PCの電源ボタンを押し ます。



### ③起動後にシステムからシャッ トダウンし、画面が真っ暗に なったら本体横の主電源ボタ ンをOFFにしてください。

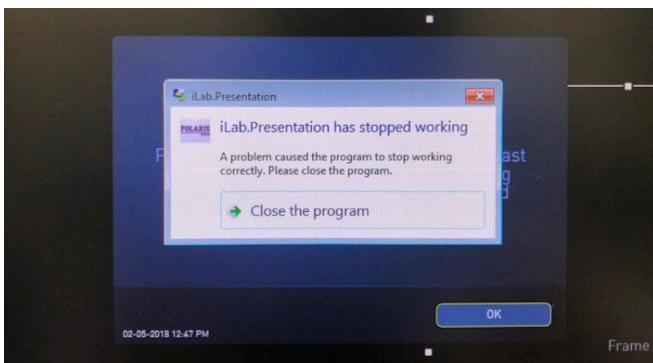


### ④必ず20秒待ってから、 主電源ボタンをONにして 起動してください。



# Polaris SWが、急に止まってしまう “iLab Presentation has stopped working”

## 【表示スクリーン】



【現象】  
システムが急に停止してしまう。

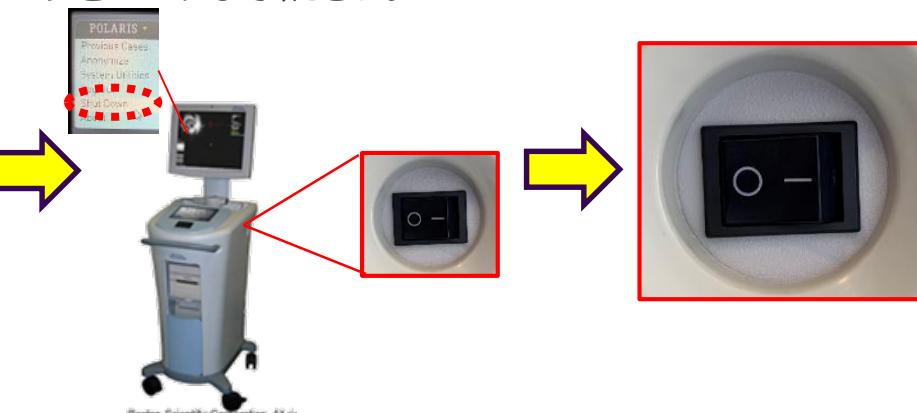
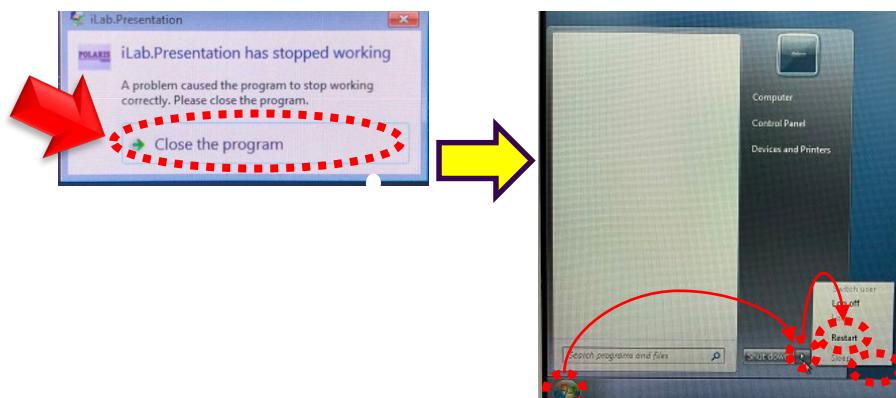
⇒ システムの再起動をします

## 【対処方法】

①Close the Programを選択します。

②Windowsスタートボタン、  
□ボタンの順にクリックし、  
Restartを選択します。

③起動後にシステムからシャットダウンし、画面が真っ暗に  
④必ず**20秒**待ってから、主電源ボタンをONにして起動  
なったら本体横の主電源ボタンをOFFしてください。

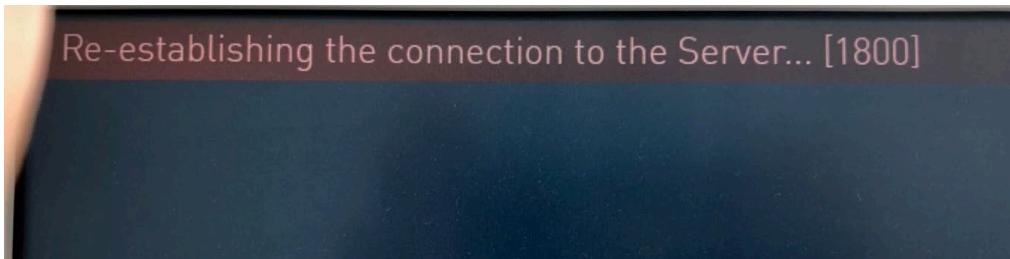


# Polaris SWが、急に止まってしまう “Re-establishing the connection …(Error 1800) ”

Boston  
Scientific  
Advancing science for life™

## 【表示メッセージ】

### Re-establishing the connection to Server ...[1800]



## 【現象】

システムが急に停止する

⇒ システムの再起動をします

注:モータードライブとPolarisソフトにて同時にpullbackボタンを押すと当該事例が発生することがあります。

## 【対処方法】

### ①IMGPCの電源ボタンを一度押します。

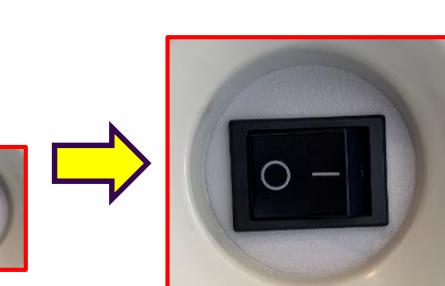
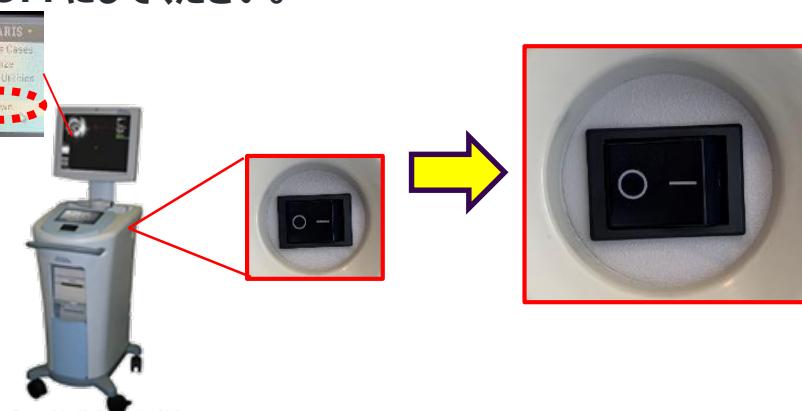
・反応が無い場合は、画面が真っ暗になるまで長押し。



### ②画面が真っ暗になったら 20秒待ってから、再度 IMG-PCの電源ボタンを押します。



### ③起動後にシステムからシャットダウンし、画面が真っ暗にな ったなら本体横の主電源ボタ ンをOFFしてください。



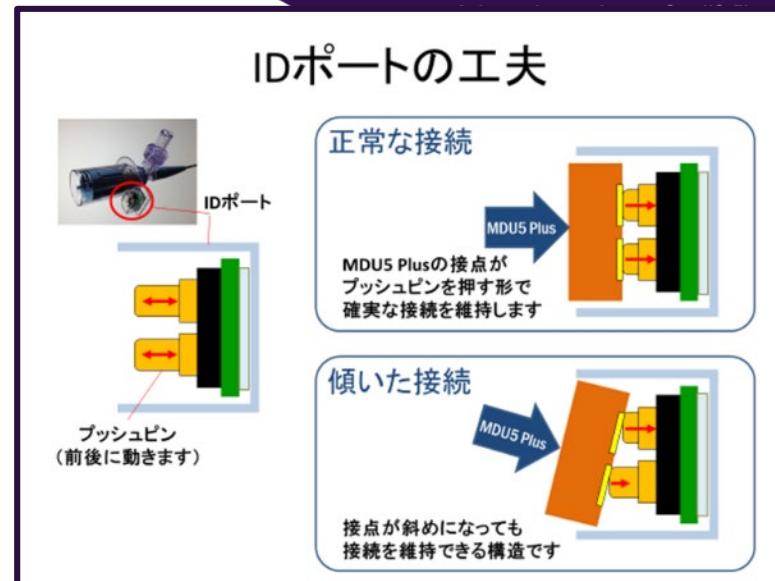
【表示メッセージ】

**Catheter has been disconnected 5002**

### 【現象】

MDUとカテーテル接続部下部のIDポートが正しく接点されていません。イメージがストップしたり、誤ったカテ認識で適切な画像が描出されません。

⇒ 物理的な接続を確認します



## 【対処方法】

### ① カテの抜き差し



カテーテル装着時に**1~2回抜き差し**してください  
↓  
プッシュピンを強制的に動かすことで、前後の  
動きがスムーズになり、**接続がより確実**になります

### ② カテーテル交換



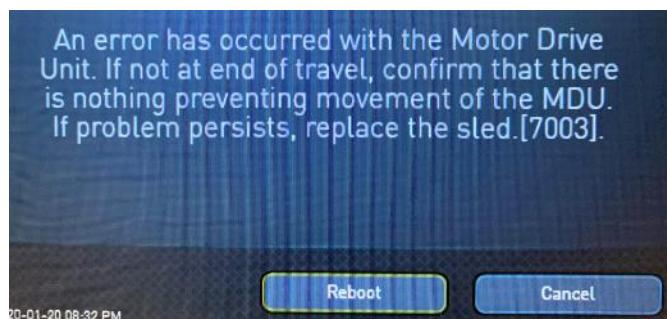
### ③ 接点清掃（手技後）



汚れがある場合は70%以下の  
イソプロパノールで拭き取ってください。

# プルバックが途中で止まる (Error 7003)

## 【表示メッセージ】



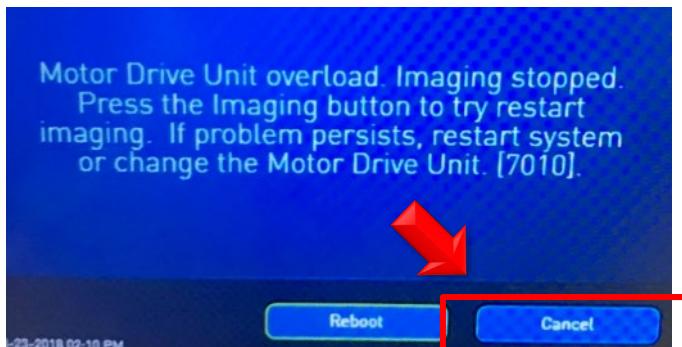
### 【現象】

プルバックをスレッドの途中からスタートしたり、MDU目盛り（カウンター）のリセットが正しく行われなかった場合、カウンターが100mmになる前にスレッドend（後端）に到達した時に表示されるメッセージです。

⇒ エラーを解除し、プルバックスタート位置でカウンターをリセットします。

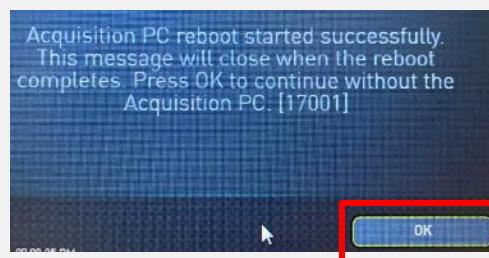
## 【対処方法】

“Cancel”を押すことで、  
即時復旧できます



### 【注意】

“Reboot”を押すと再起動プロセスとなり、2分程度使用不可となります



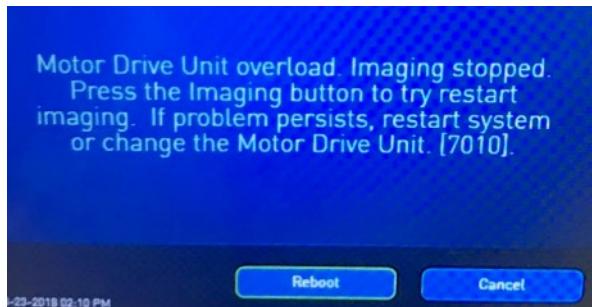
| IVUS Live / Record                                    | IVUS-4 | IVUS-3 | IVUS-2 |
|---|--------|--------|--------|
| Acquisition is now available and ready for use. [110] |        |        |        |
| MDU connected [5021]                                  |        |        |        |
| Sled connected [Check latches are flush] [5003]       |        |        |        |

ACQPCの再起動となり約2分後、“OK”から、緑の自己チェックメッセージが表示され使用可能になります。

# オーバーロード Overload (Error 7010)

Boston  
Scientific  
Advancing science for life™

## 【表示メッセージ】



## 【現象】

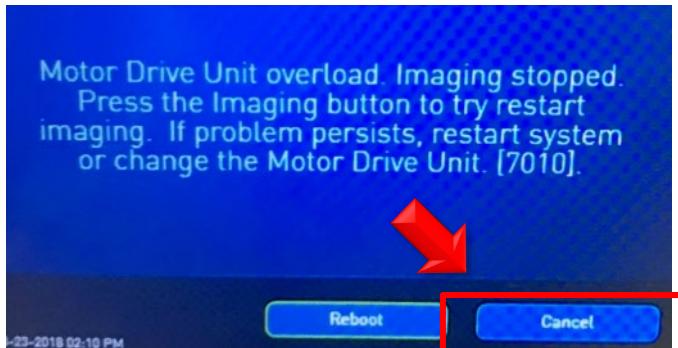
MDUの回転が途中で止まり、左図のメッセージが表示されます。

## 【原因】

- MDUに回転負荷が過度にかかった状態のアラートストップです。
- 屈曲病変や蛇行病変、手元や先端シャフトが曲がっている等の物理的な要因でも発生します。

## 【対処方法】

**“Cancel”を押すことで、  
即時復旧できます**



1. カテーテルを真っ直ぐにする
2. カテーテルを押しながら回転継続をさせない（先端が引っかかるて押され、曲がっている（ちょいナックル）と回転負荷を生みます）
3. 「Cancel」ボタンを押し続ける（物理的要因が改善しない限り、何回も止まります）
4. カテを真っ直ぐにして改善しなければ、カテ交換
5. 最近何してもオーバーロードが続く場合、MDU回転音がおかしい場合はMDU交換

## 【表示画像】



## 【現象】

プルバックの切替ボタンが“グレーアウト”しており「Auto」を選択できません

## 【原因】

MDUとスレッドの物理的な接続ができていない場合があります

⇒ MDUとスレッドの接続を確認ください

## 【対処方法】

- ①MDUの正面ディスプレイが表示されているか、MDUがスレッドから浮いていないか確認ください



- ②動作チェックお願いします（不潔時）



スライドさせて、がたつき及び  
引っ掛けがないか確認ください

# 画像不良（カテ誤認識、画面が極端に暗い）

## 【現象】

画像が適切に描出されず、暗く判別できない状態

## 【原因】

(断線画像)

1. **断線**…電気的切断で何も映りません。カテ交換です。
2. **カテ誤認識**…別の製品の認識した場合、画像設定が異なり適切な画像・適切なサイズで表示することができません。正しい認識で改善します。
3. **エア混入**…濃淡がフワフワした画像となり、フラッシュで改善します。
4. **ダークイメージ**…フラッシュで全く改善しない場合は、製品不良です。  
(Brightness10で、判別できる場合もあります。)
5. **機器不良**…カテ交換しても連続する場合は機器不良の可能性があります。

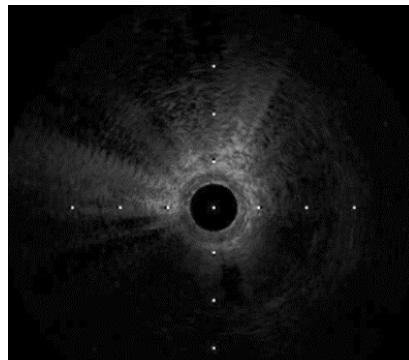
## 【対処方法】

①接続カテが正しく認識されているか確認ください。

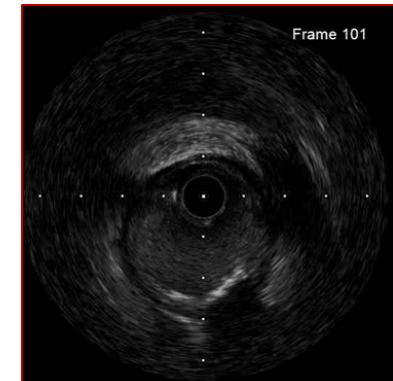


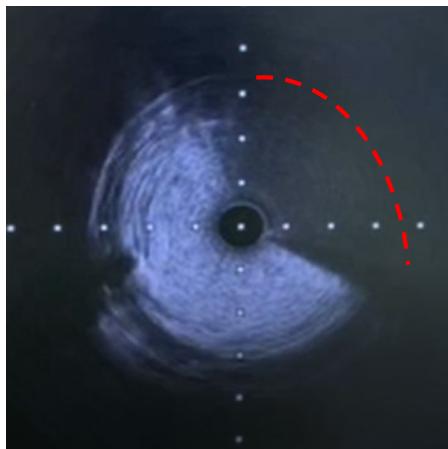
誤認識の場合、カテとMDUの脱着を数回行ってください。

②カテをフラッシュし、画像が改善するか確認ください。



③製品不良です。カテ交換をお願いします。





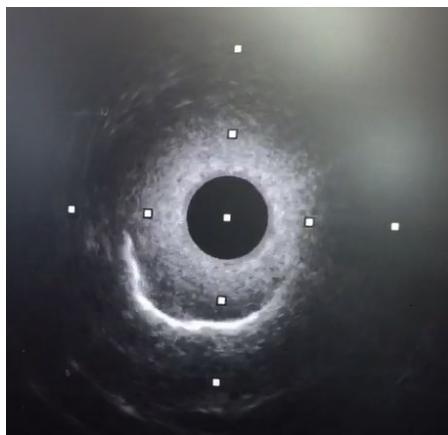
## 【現象】

放射状に画像が欠損し、欠損のサイズや位置が変化します  
曲がりがきつい部位のみで発生することがあります  
フラッシュで改善しません

## 【原因】

カテーテル内部の接続不良です。

→ カテーテルの交換をお願いします。



## 【現象】

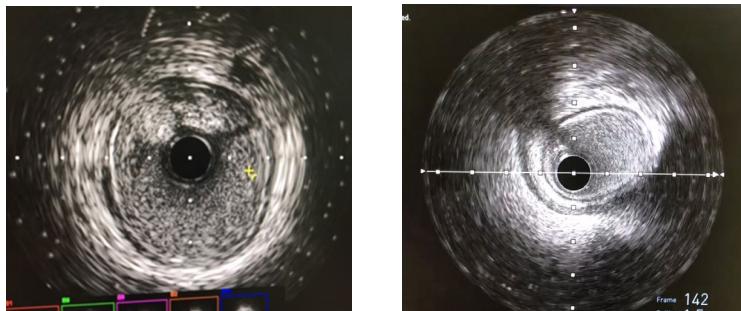
IVUS画像は映っているが、カテーテル周囲が非常に明るいノイズで覆われてしまい  
近位部や短軸像全体が見えなくなる。  
フラッシュで改善しません

## 【原因】

明確な原因はわかっていません。

→ カテーテルの交換をお願いします。

# IVUS画像にノイズが混入する①



## 【現象】

粉雪が舞ったような画像が現れる

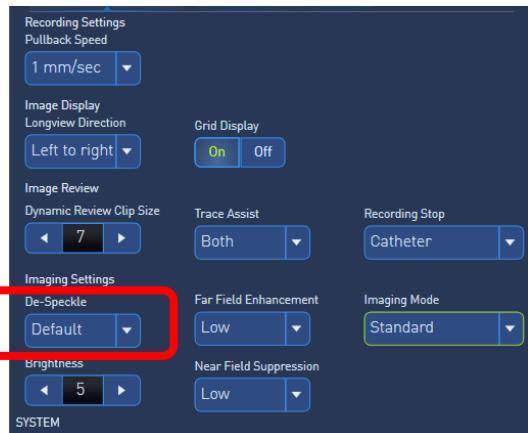
## 【原因】

1. イメージ設定
2. ノイズ…他の医療機器の電磁波の影響を受けている

→ 電磁波干渉の元/状態を除去します

## 【対処方法】

- ① DDP（血球エコー抑制機能）の設定をDefaultもしくはLowに設定変更します。



DDP Highはノイズが目立つ事があります。

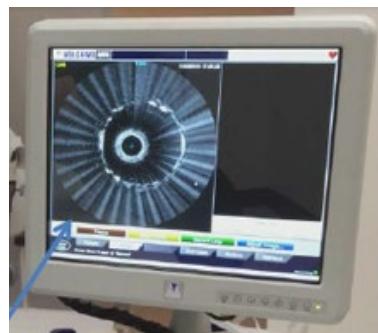
## ②外部機器からのノイズ混入の可能性の除去

カテテルテーブル、インジェクター、シリンジポンプ、FFR、モニター、曝射スイッチ等からの電磁波ノイズが影響することがあります  
MDU5+ケーブルの動線を変え、ノイズが混入しにくい場所を検証します。



Imagingの状態で、外部機器の電源ON/OFFすることにより  
原因確認が可能（シミュレーターでは現象出ない）

# IVUS画像にノイズが混入する②



## 【現象】

他社のIVUS画像や、末梢用カテーテル画像に(OptiCross18等)に放射状ノイズがのる。

## 【原因】

FFR-Link 電源ON時 のBluetooth電波干渉です。  
→ FFR-Linkの電源を切れます（切れるタイプの場合）  
→ FFR-Linkと物理的な距離を開けること  
→ パスルータイプのFFR-Linkへ交換します。

## 【対処方法】

① MDUやケーブルの動線とFFR-Linkを物理的に離します。

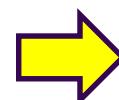


ケーブルが近接

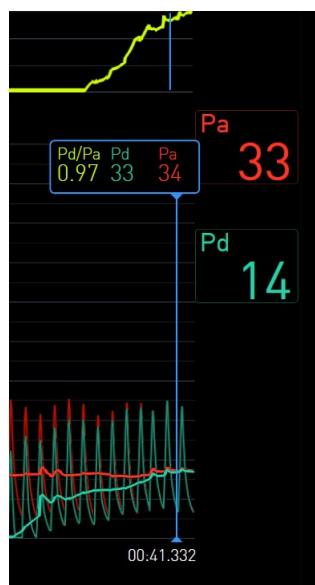


MDUが近接  
(写真は他社製)

② FFRを使用しない時は電源OFFにできるタイプ（パスルータイプのFFR-Link）に交換することで、IVUS単独使用時のノイズを低減できます。  
(担当セールスかコールセンターに相談ください)



\*背面ラベルの  
シリアル2688以降は、  
パスルータイプです。



## <ドリフト現象>

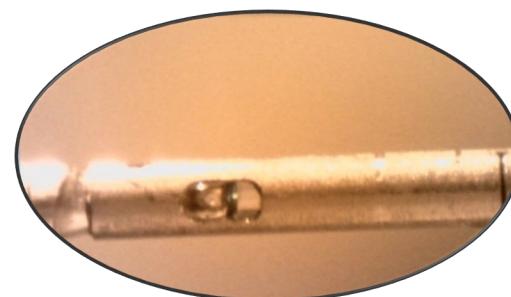
FFR測定後、カテーテル先でのPa圧とPd圧が一致せず、Pd/Pa比が1.00にならないと

## <原因>

Pa、Pd圧ともに変動するため要因は多数あります。

### 【Pa（動脈圧）由来】

- ・残存造影剤によるなまり（動脈圧波形のNotchの有無を確認ください）
- ・インシエータ抜き忘れ
- ・止血バルブの閉め不足
- ・ガイディングの入口部閉塞
- ・サイドホール付きガイディング
- ・IBP圧トラの高さ



### 【Pd（FFRワイヤー圧）由来】

- ・センサー付近のマイクロバブル
- ・不正確なPd=0

## 【正しいイコライズ方法】

1. ガイディング、インジェクター一体型は造影チューブを念入りにフラッシュ
2. 20秒ほど静置し圧が安定してからイコライズ
3. イコライズ後、圧が安定していないければ再度実施

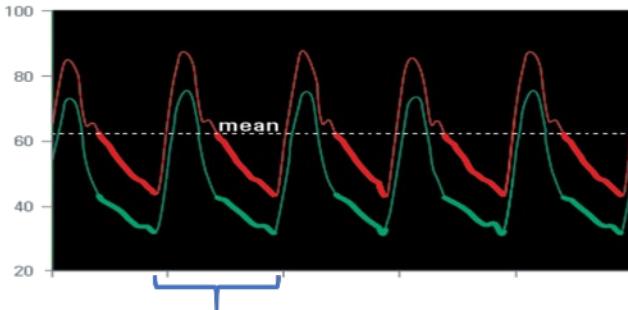
## Pa波形はいろいろな原因でゆがみを生じ異常波形となります

| 現象    | 原波形   | 共振   | オーバーシュート  | なまり  |
|-------|---|--|---|--|
| 波形の形状 |  |  |  |                 |
| 原因と対策 | 正しい圧波形  | 圧ラインへの気泡混入や柔らかい耐圧チューブに起因する。<br><br>圧ラインをフラッシュしてエア抜きを行う。もしくは、硬いチューブに交換する。           | 圧のejection(駆出)が強い人に起こりやすく、長いチューブで起こりやすい。<br><br>適切な長さと硬さの圧チューブに変更する。                | ・造影剤の残留<br>・GCの血管壁への接触<br>・気泡の混入が主な原因となる。<br><br>特にインジェクタシステムを使用している場合は10秒程度の念入りな生食によるフラッシュが必要である。 |

図：日本光電WEBサイト「血圧波形のゆがみ」より引用

## 【表示メッセージ】

Unexpected beat detected. Please click record again [6019]



波形の間隔が2秒以上、もしくは0.25秒以内

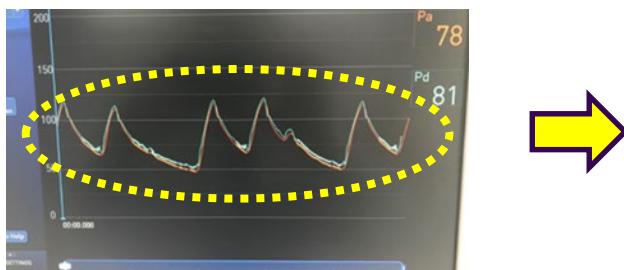
## 【現象】

以下のPa圧が計測された場合、**異常波形**とみなされDFRの記録が出来ません

1. 波形と波形の間隔が長すぎる（2秒以上）もしくは短すぎる（0.25秒以内）
2. マイナスのPa圧を検出する
3. Pa圧がゼロになる
4. Pa圧波形のスパイク（不規則なオーバーシュート等）
5. DFR切替から“Rec”までの操作が早い場合

## 【対処方法】

①Pa波形が異常波形になっていないか確認ください。

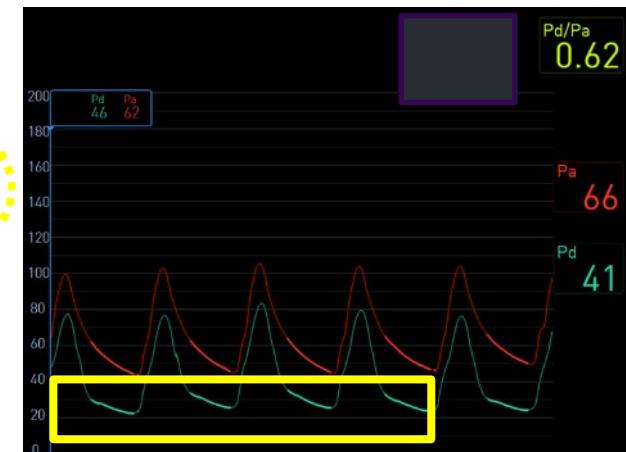


不整脈患者さんで、よく起ります。Resting自体が難しくFFRを計測お願いします

②大気解放し、AOゼロの再設定をお願いします。



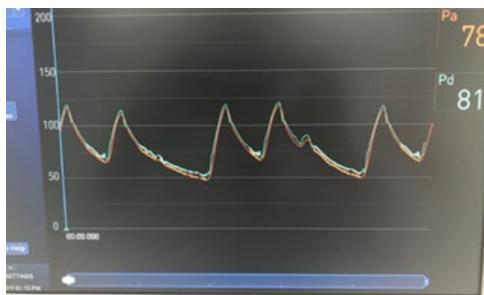
Pdの拡張期圧がAoゼロ時のマイナス圧の幅を超える



## 【Pa異常波形】

実際に異常波形が計測され、計測できない場合

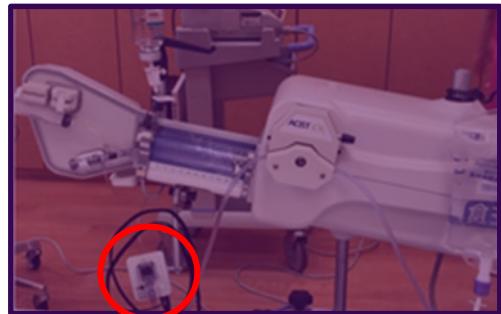
1. 不整脈の程度の悪いPa波形
2. フラッシュや薬剤投入直後
3. 波形間が長い（2秒以上）か短すぎる(0.25秒以内)



## 【Paマイナス圧波形計測】

Pa圧システムからマイナス圧が送られてくる場合

1. Pa圧システムの故障・消耗（特に圧台座）



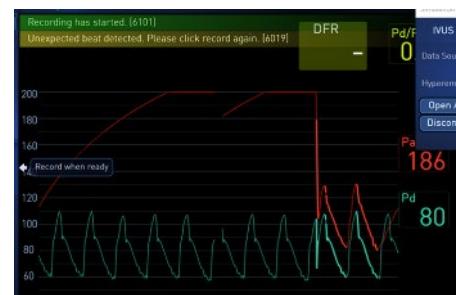
各社圧台座は使用回数設定があります。  
台座のゴムが劣化により、正しい計測ができない場合があります

⇒  
Paシステムの確認  
台座の交換

## 【計測操作が早い】

DFR“REC”ボタンを押すのが早すぎる場合

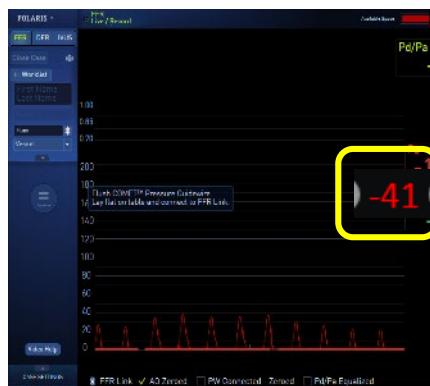
1. DFR切替直後
2. フラッシュや薬剤投入直後



ちょっと待って、波形が安定してからDFR“REC”を押してください

## 【Pa圧大気解放時の大幅な負圧（-40mmHg等）】

大気解放時に大幅な負圧が計測された場合、DFR計測時にPa拡張期圧が負圧（例：40mmHG）を下回ると、Paがマイナス圧になったと判断しDFRの計測ができなくなります。



大気解放時に大幅負圧が表示された場合は要注意です

⇒

1. 大気解放し、AO=0の取り直し
2. FFRの計測に変更する

# 通常使用のチップス 目次



| 項目                                     | ページ |
|--|-----|
| エアをしっかり除去するためのIVUSカテーテルフラッシュ方法         | 22  |
| IDポートの仕組み（接続認識・カテ認識）                   | 23  |
| IVUSカテーテルとモータードライブユニットの接続方法とDisconnect | 24  |
| MDUの収納方法について                           | 25  |
| Polarisシステムの定期メンテナンスについて               | 26  |
| Event Logの取得方法                         | 27  |
| Polaris時刻設定                            | 28  |
| 画像圧縮                                   | 29  |

# エアをしっかり除去するためのIVUSカテーテルフラッシュ方法

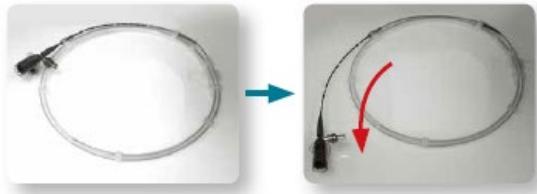
※モータードライブユニット接続前に必ず行ってください。

Boston  
Scientific  
Advancing science for life™

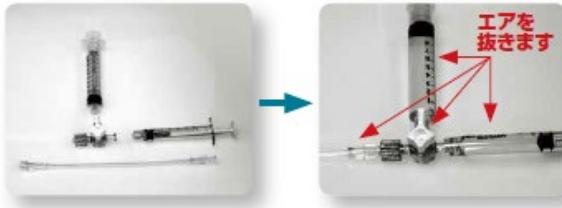
## 1. テレスコープを完全に引出します。

Point1

注意：テレスコープが完全に引出されていない状態でフラッシュすると、引出されていないテレスコープ部分のエアが残ってしまいます。



## 2. フラッシュキットを組立て、エアを完全に除去します。

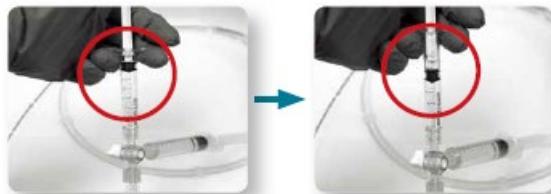


## 3. 組み立てたフラッシュキットをIVUSカテーテルのフラッシュポートに接続します。

Point2

## 4. 3ccシリンジで2回フラッシュをゆっくり行います。

特に1回目のフラッシュの最初の1ccが重要です。マイクロバブルをつくりないように10秒以上かけてゆっくりフラッシュしてください。一度できてしまったマイクロバブルの除去は難しくなります。



## 5. ストップコックのOFFはIVUS側にたおし、IVUSカーテ内を閉塞状態にします。



フラッシュ後は必ず同じようにIVUSカーテ内を閉塞状態に保つようにしてください。

## 6. モータードライブユニットと接続します。

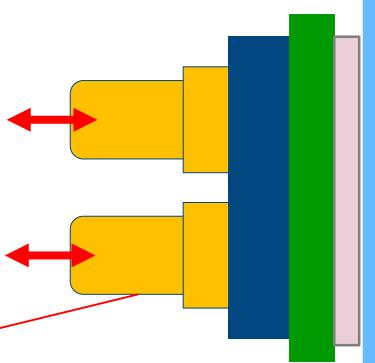
## 7. 体内に挿入直前に再度フラッシュを行います。

- 体内から出したIVUSカーテルは必ずフラッシュしてください。また、再度、体内へ挿入する際も、挿入前にフラッシュを行ってください。
- IVUSカーテルを使用しない間は、フープに戻すかキンクしないような状態で保管ください。

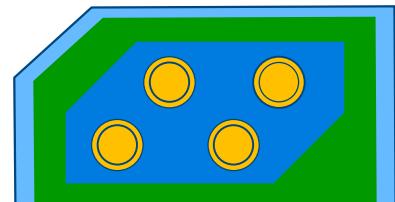
# IDポートの仕組み（接続認識・カテ認識）



IDポート



プッシュピン  
(前後に動きます)

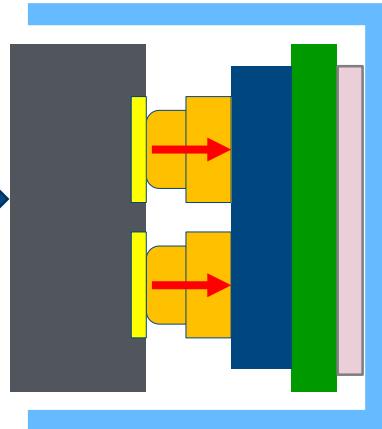


IDポート（正面図）

## 正常な接続



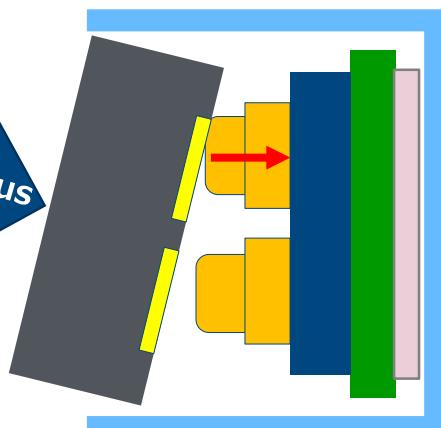
MDU5 Plus™の接点が  
プッシュピンを押す形で  
確実な接続を維持します



## 浮いた接続



正しく接続されないと  
カテ誤認識  
Disconnectedエラー  
となりイメージが止まります



# IVUSカテーテルとモータードライブユニットの接続方法とDisconnect カテーテル誤認識発生時の対応



Check

1. カテーテルをモータードライブユニット(MDU)に接続します。  
その際、「カチッ」と音がなるまでしっかりとはめ込んでください。



2. 本体モニター上に接続確認のメッセージが表示されます。  
同時に、カテーテル表示欄に接続したカテーテル名が表示されていることを確認します。



Disconnect/カテーテルの誤認識があった場合は、  
下記の確認・対応をお願いします。

## ①カテーテルの再接続



1-2回カテーテルの  
抜き差しをしてください。

## ②ドレーフの浮き確認



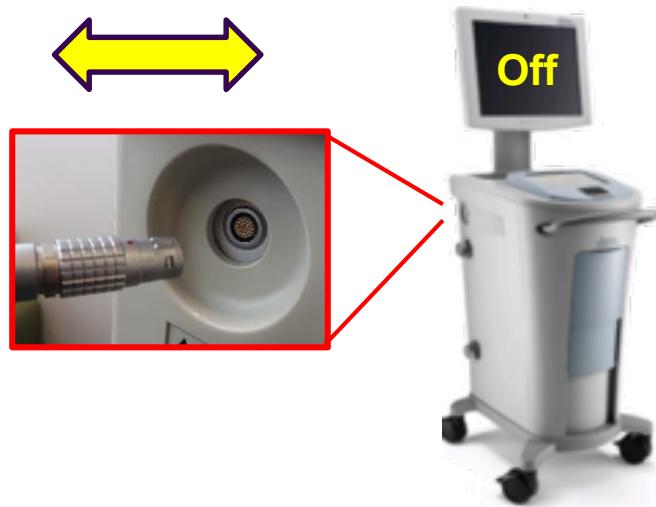
ドレーフが原因でカテーテルと  
MDUの間に浮きが生じていな  
か確認ください。

## ③上記で改善されない場合はカテーテルを交換

## ④カテーテル交換で改善されない場合は本体の再起動

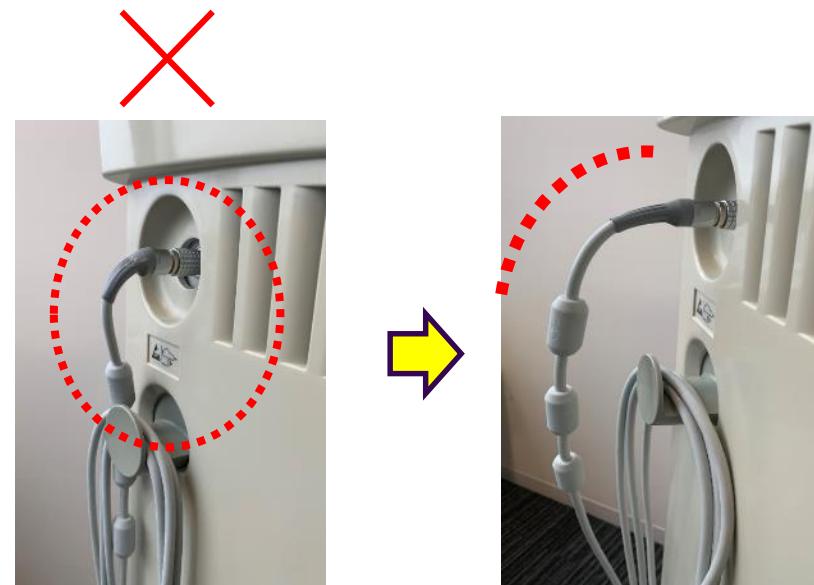
# MDUの収納方法について

MDUを差し替える時は、iLab本体の主電源を  
Offにした状態で交換をお願いします



通電中（電源ON中）に抜き差しをすると、  
MDUを損傷、故障する可能性があります。

MDUを片づける時は、内部ケーブルの損傷を避  
けるために、根元をゆったり大きく巻いて下さい



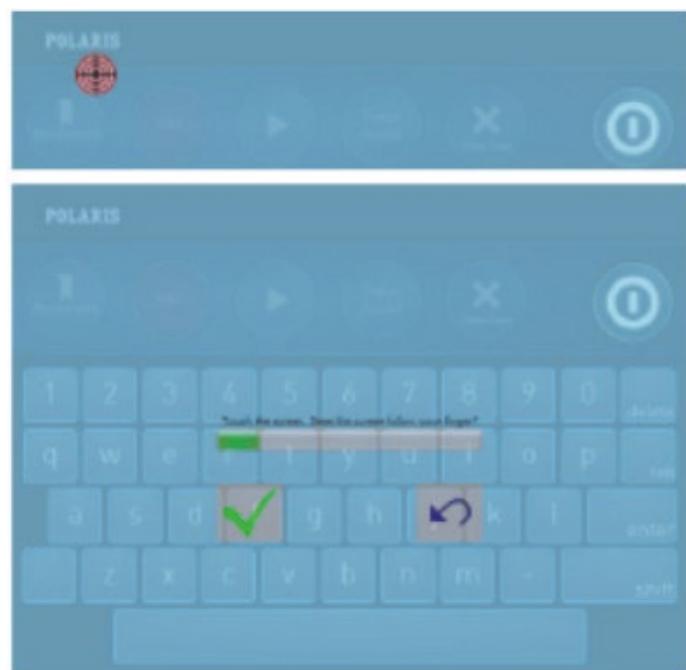
内蔵ケーブルが断線・損傷するとイメージが表示され  
なくなったり、ケーブルの向きによって表示されたり、消  
失したりします。

## 【ユーザーによる保守について】

決められた保守は、6ヶ月毎にタッチスクリーンを校正することです。点検結果に問題がある場合は、弊社テクニカルサポートセンター（フリーダイヤル：0120-177-779）まで連絡してください。

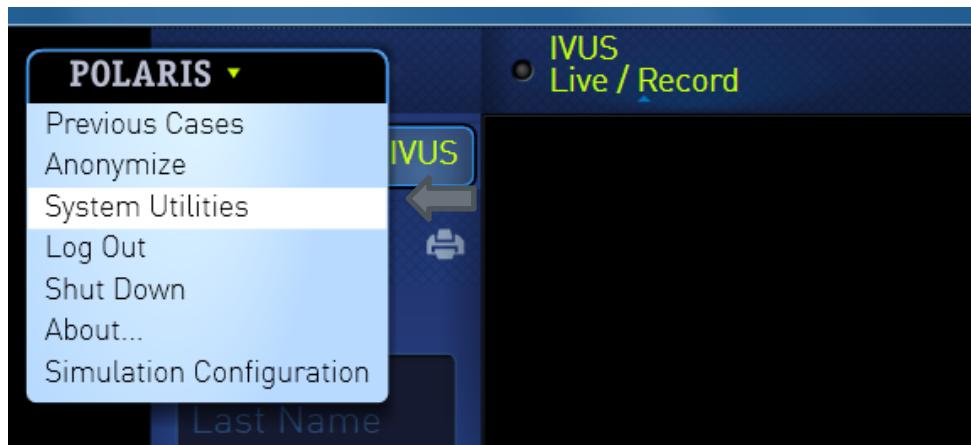
## タッチスクリーンの較正（キャリブレーション）

1. ポラリスシステムを再起動してください。
2. システムが起動したら、メイン画面の右下にあるCalibrate Touchscreenをクリックしてください。  
**注記：起動時セルフテストが完了して、セルフテスト進捗バーが消える前にタッチスクリーンの較正ボタンをクリックします。**
3. ターゲット画面（+）が画像ディスプレイに現れ、30秒後にコントロールパネルが表示されます。
4. コントロールパネルにターゲット画面（+）が表示されたら、指で対象箇所にタッチします。
5. カーソルが表示されたら、タッチスクリーンでこれをドラッグしてください。カーソルが指に反応したら、緑色のチェックマークでボタンをタップし較正を終了してください。システムは、システムの設定に応じて、ログイン画面またはメイン画面に自動的に進みます。カーソルが指にうまく反応しない場合は、青い矢印でボタンをタップして戻り、このステップを繰り返してください。
6. この手順を繰り返してもカーソルが指の動きにうまく反応しない場合は、ボストン・サイエンティフィック社までご連絡ください。

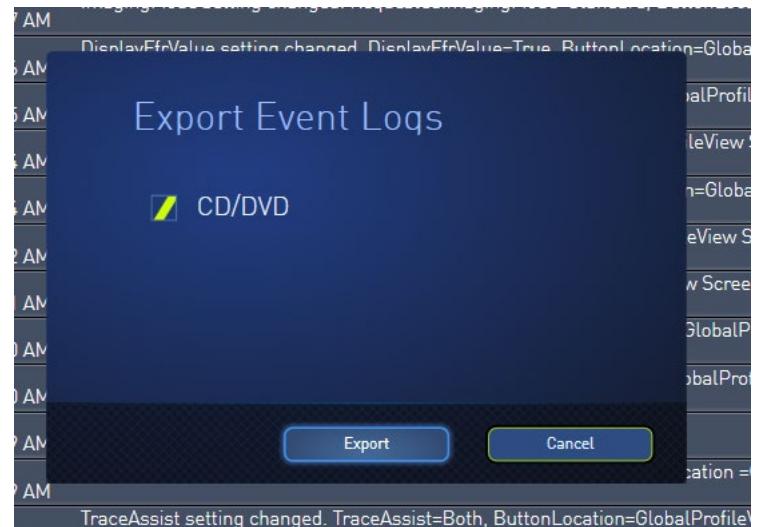


# Event Logの取得方法

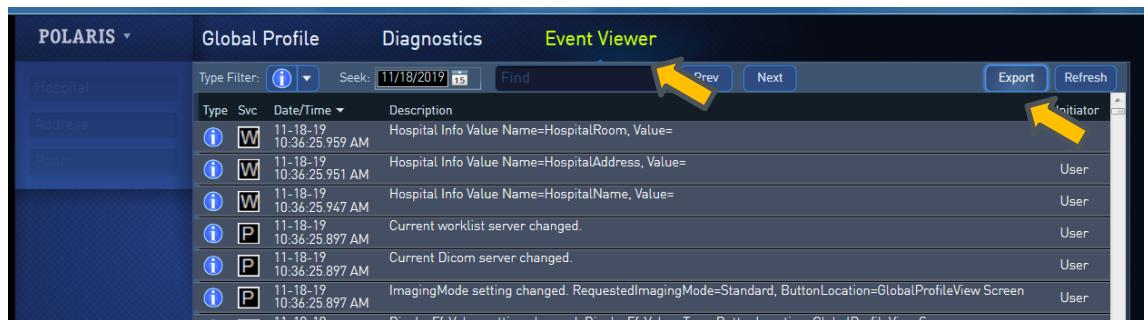
①左上のプルダウンにて、  
“System Utilities”を選択



③“Export”を選択すれば、数分で完了し、  
自動的にDVDが排出されます。

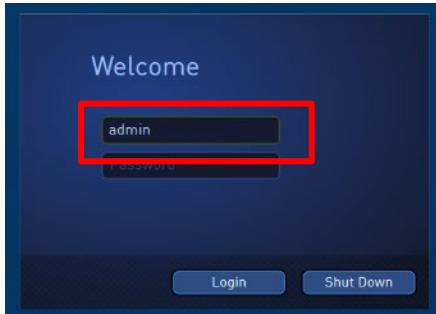


②DVDトレイに、DVD-Rを挿入した後、  
画面上の、“Event Viewer”→“Export”を選択



# Polaris時刻設定

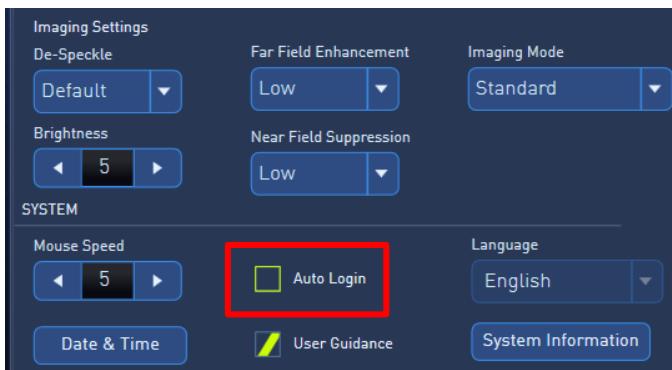
## 1. "Admin"でログインします



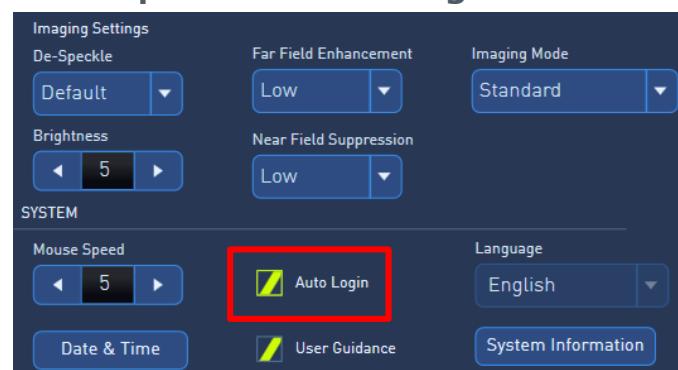
## 4. Date & Timeで時刻を合わせます



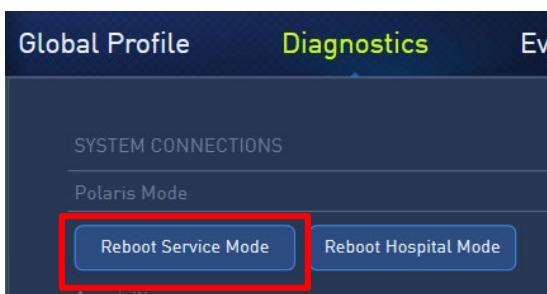
## 2. Global profileで"Auto Login"を外します



## 5. Global profileで"Auto Login"をチェックします



## 3. Diagnosticsで'Reboot Service Mode'します



## 6. Diagnosticsで'Reboot Hospital Mode'します



# Appendix



OptiCross™

OptiCross™ HD

販売名：オプティクロス超音波イメージングカテ—テル

医療機器承認番号：22500BZX00274000

OptiCross™6

OptiCross™6 HD

販売名：オプティクロスF超音波イメージングカテ—テル

医療機器承認番号：22800BZX00262000

iLab™ System Cart

販売名：i-Lab カートシステム

医療機器承認番号：219ABBZX00238000

iLab™ System Install

販売名：i-Lab インストールシステム

医療機器承認番号：219ABBZX00239000

PSST20200213-0112 2020/2 改訂版作成